

I. 2019 年度事業運営の特徴と課題

1-1 各保険事業の状況（清雅苑本体）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
特養 (稼働率)	2019年	91.7	94.2	94.5	95.5	95.6	95.0	93.9	92.8	93.3	94.1	95.3	95.2	94.2
	30年	96.7	96.2	96.9	96.8	96.8	98.0	96.9	96.0	97.1	91.6	93.7	93.2	95.8
短期入所 (稼働率)	2019年	147.8	142.5	151.1	151.6	143.5	134.4	139.8	128.9	138.2	143.0	141.4	142.5	142.1
	30年	127.8	109.1	113.9	115.6	122.0	105.0	109.1	126.1	121.0	147.8	145.8	133.9	123.1
施設計 (稼働率)	2019年	95.5	97.5	98.4	99.3	98.8	97.7	97.1	95.3	96.3	97.4	98.4	98.4	97.5
	30年	98.8	97.1	98.1	98.1	98.5	98.5	97.7	98.1	98.7	95.5	97.2	95.9	97.6
通所 (稼働率)	2019年	83.2	87.4	89.1	86.4	84.9	84.3	84.0	87.2	84.9	83.1	84.1	81.4	85.0
	30年	89.0	93.0	90.4	85.8	86.9	88.3	88.5	89.3	88.0	89.7	87.1	85.9	88.5
営業日数	2019年	26	27	25	27	27	25	27	27	25	24	24	26	25.9
	30年	25	27	26	26	27	25	27	26	25	24	24	26	25.7
介護予防 プラン	2019年	275	274	272	277	276	281	285	283	283	279	277	264	277.2
	30年	255	259	258	263	262	266	278	277	277	270	272	272	267.4
(直営)	2019年	88	87	89	95	92	97	100	97	97	98	95	95	94.2
	30年	102	109	110	113	107	112	114	110	89	81	83	84	101.2
(委託)	2019年	187	187	183	182	184	184	185	186	186	181	182	169	183.0
	30年	153	150	148	150	155	154	164	167	188	189	189	188	166.3

※平成 29 年度より、通所介護の一般型と認知症型を統合する。

1-2 各保険事業の状況（みやびやか旭） 平成 23 年 5 月開設

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
居宅介護 支援	2019年	117	115	110	109	112	108	109	108	108	108	108	109	110.1
	30年	121	124	126	127	124	127	126	128	126	128	124	115	124.8
介護予防 プラン	2019年	15	15	14	12	12	13	13	12	12	12	13	12	12.9
	30年	21	22	20	20	20	19	20	20	20	20	15	14	19.3
訪問介護 (時間)	2019年	1745.5	1759.5	1604.5	1806	1746.25	1672.75	1815	1740	1764	1633.75	1611.25	1743	1720.1
	30年	1605.5	1725	1639.75	1685.25	1739	1487	1692.5	1646.5	1482.75	1427	1505	1591	1602.2
営業日数	2019年	26	27	25	27	27	25	27	26	25	24	25	26	25.8
	30年	25	27	26	26	27	25	27	26	25	24	24	26	25.6

※1 居宅介護支援・介護予防プランの数値は、ケアプラン作成件数を表示

※2 平成 29 年より居宅介護支援をみやびやか旭に統合する。

2-1 介護老人福祉施設の利用状況

2019 年度は、疥癬というヒゼンダニが身体に寄生する感染症が流行してしまい、8 月中旬から 11 月いっぱいまで対応に追われました。ご利用者、ご家族にご迷惑、ご不安をおかけしてしまいました。またショートステイに関しましては、受け入れ制限をせざるを得ない状況を作ってしまった。年度末には新型コロナウイルスの世界的流行に伴い、様々な規制を設けながら、手探りの状況の中対応に追われています。2019 年度に関しては退所が 24 件と比較的多かった事と、入院者が長期でいらっしゃり、特養ベッドが安定しませんでした。その分、空床のベッドをショートステイの方に利用していただく様調整することができました。

2019 年度は、入所：24 件、退所：24 件、内 8 件は施設内での看取り介護を行いました。入退所件数は昨年より 3 件少ない状況で、年間平均稼働 94.2%と昨年度より 1.6%低く推移しました。施設での看取りに関しても、昨年度より 8 件少なく推移しています。

2-2 短期入所生活介護の利用状況

昨年度に比べ、平均稼働率は142.1%と19.0%増加しました。特養ベッドの空床を利用して、新規ご利用者への声掛けを行えたこと、また、緊急ショートステイの受け入れが多かったことが稼働の向上につながったと考えられます。地域の中でも清雅苑のショートステイは受け入れをしてもらえるとこの事が大分認知されてきたのではないかと感じられます。引き続き、地域のニーズに応えられるよう、ご家族、ケアマネジャー、関係事業所と連携を図り、受け入れを行っていきたくと考えています。

2-3 通所介護の利用状況

2019年度は通常規模から大規模Ⅰでの運営を行って参りました。しかし、ご入院や体調不良などによる長期のお休みなどが影響、特に夏場からは終了される方も目立ちました。稼働は平均して85.0%となりました。部署の内外で話し合いを行ってパンフレットの改新など、新たなご利用につながる活動を行いました。また既にご利用されている方にも臨時利用の活用などをお勧めしたり、新たなレクリエーションを開拓するなど稼働率維持に繋がる取り組みは出来たと思います。今後もより多くの方から支持いただけるデイサービスを目指していきたくと思います。

2-4 きよせ清雅地域包括支援センターの活動状況

職員体制は、管理者1名、主任介護支援専門員1名、社会福祉士2名、看護師1名、の計5名体制で業務を遂行しています。事業に関しては清瀬市地域包括支援センターの運営事業・計画にのっとり、地域包括支援センターが公正・中立な立場を確保し、示された業務を円滑かつ適正に進めて参りました。平成29年度から始めた「アウトリーチ事業」は年々増え続ける80歳以上の独居高齢者に加え、80歳以上と70歳以上の同居者がいらっしゃる世帯もアウトリーチの対象者として枠を広げて行っています。包括支援センターや介護支援専門員による支援を受けていない方に対して、有意義な働きかけができる結果を前年度同様に得られています。また、住み慣れた地域で清瀬市の高齢者の複雑・多様化した課題を各委員会に参加し検討・協議して課題や問題の整理を行い、ご利用者に役立つ包括支援センターの構築を図りました。他、清瀬市高齢者元気回復事業の委託を受け、活動の場が減少しがちな高齢者に対し、社会参加や活動の場を提供することをひとつのきっかけとし、閉じこもりの予防、運動機能低下予防、認知機能の低下予防を目標とする運動教室「せいが中里元気塾」を毎週木曜日に中里地域市民センターにて実施し、利用者は大きく増員しています。

年度末に新型コロナウイルスが流行し、その予防対策として多人数で開催される室内で行われる会議や講習などはすべて中止となりました。開催するべく準備をしておりましたが市民センター等の公共施設もすべて閉鎖となり未開催となりました。

虐待の件数は年々増え、多い月では実人数9名の対応を致しました。主たる疾病は見られない養護者の同居の家族は仕事をしておらず、所謂「8050」問題とされている家族に対して、保険者に専門に対応する部署はないことから保健所等と相談しながら対応策を模索し、苦慮しながら問題解決に向けて対応しています。

予防プランに関しては、居宅の委託事業者の請負がないのは前年同様に大変つらい状況が続いております。「生活支援コーディネーター」は「支え合いのしくみづくり」の中の「2層協議体」を旭が丘に立ち上げています。また自主的な介護予防施策としての「10の筋トレ」も3か所の立ち上げに尽力しています。

2-5 居宅介護支援事業（みやびやか旭）の利用状況

常勤1名が4月より産休・育休に入ったため、居宅介護支援の実績は昨年度と比較し減少しています。来年度からは職員も復職するため、目標給付管理件数の達成を目指します。

また、台風19号等、自然災害が利用者の生活に及ぼす危機が再確認された年でした。河川に近いエリアに担当利用者の多くがお住まいであり、災害発生時の安否確認、避難等、どう対応すべきか、利用者、家族、サービス事業者、保険者等と連携しながら備えを進めていく必要性を実感した1年でした。

年度末には新型コロナウイルス感染症の流行により、緊急事態宣言が発令され、地域全体のサービス事業所が休業となるリスクが現実的なレベルまで高まってきました。問題は長期化するものと思われ、利用者の在宅生活を守るため、可能な対策をサービス事業所と協議しながら調整を進めてまいります。

2-6 訪問介護事業（みやびやか旭）の利用状況

平成31年4月から令和2年3月までの派遣時間総数は20,641.5時間でした。月平均で1,720.1時間ほどになっています。昨年度より月平均117.9時間増加しました。高齢化に伴い訪問介護へのニーズは高まっております。登録ヘルパーは令和2年3月時点で35名在籍しています。

人材確保が難しい中、職員からの紹介等もあり、数名の入職がありましたが、地域のニーズに応えるためには、更なる人材確保が課題となります。

また、新任サービス提供責任者もいるため、ご利用者の状況を全職員で共有しながら、援助内容によっては経験のある職員と2人で動くケースが多かったことが特徴的な1年でした。経験のある職員は指導する立場となり、改めて仕事内容を振り返る良い機会になったと思います。

年度末には新型コロナウイルスの流行に伴い先行きが見えない状況となっておりますが、在宅生活を支える事業所としては可能な限り、関係機関と協議しながら支援してまいります。